

## 知事記者会見（平成21年7月6日）

### ●知事発表

なし

### ●幹事社質問

（1）国への施策・予算に関する提案・要望について

### ●その他の質問

（1）橋下大阪府知事が提案している首長連合について

（2）静岡県知事選の結果について

（3）衆院選での対応について

（4）消費税引き上げについて

（5）新副知事に期待すること

時間：12：59～13：24

場所：県庁プレゼンテーションルーム

-----  
（幹事社）

それでは、知事の定例記者会見の方をよろしくお願いいたします。

本日、知事から発表事項がないということですので、幹事社から1つだけ質問させていただきます。

昨日、国会議員の先生方にもご説明ありましたが、国への施策・予算に関する提案・要望について、今回53項目とかなり多い項目になっていますが、知事が一番強調したい点、重要だと思う、実現させていきたいと思われている点を教えてください。

-----  
（知事）

それぞれ大変重要な問題ですけれども、これまでの流れの中とはちょっと違うのが、白瀬日本南極探検隊100周年プロジェクトがあります。海外では、アムンゼンとかスコットだとかの同じ時期の探検隊の方々を顕彰して、かなり華々しくやるんじゃないのかなと思います。とすると、今こういう時代ですから、秋田が生んだ大探検家の白瀬轟さんの偉業を称えて、県や関係市町村も一緒にやることになっていますけれども、国でも少し目を向けたらいいのではないかと思います。しかも、砕氷艦（南極観測船）にも「しらせ」という名前がついていることもありますので、国に対して働きかけていくということです。

あとは、もう既に何回もいろいろやり取りしていますけれども、日沿道（日本海東北自

動車道)の関係、高速交通体系の県境部分、あるいは北部の地域、日沿道の山形県側の整備区間への格上げ等があります。いろいろな産業振興、観光などすべてのものに関係しますので、県の姿勢としてはそういうところが中心になるのかなと思います。

あとは、厚労省関係が結構多いんですけども、これは、制度の根幹に関わるもので、秋田県だけのものではないので、現状というものを訴えながらということになるのかなと思います。総務省関係の公的病院に対する財政措置というは、自治体病院(公立病院)以外、150床未満の公的病院については、自治体病院と同じような扱いで交付税措置があるということで、秋田県の場合は、厚生連病院が公的病院という位置づけになるわけですが、厚生連の病院は150床以上で対象になりません、こういうところについて、現場の状況を訴えなければならぬという感じがいたしております。

農林関係では、カドミウム米の問題が秋田県は非常に関係があるものですから、大きな政策ではありませんけれども、制度改正に伴って、こういうものについてもきちっと現場の意見を出させていただきたいなと思っております。

そこら辺が、今回のポイントであります。

---

(幹事社)

一つ確認ですが、日沿道の関係で、今回、書面にはないんですけども口頭で、現道の活用も含めてということが入っておりますが、その点についてはどのようなお考えでしょうか。

---

(知事)

特に北部の二ツ井から大館能代空港、あの地点については、全線が整備路線になっていません。それをずっと待っていても、今の道路予算の状況では、先のことになると思います。

これは、地元との十分な話し合いが必要ですが、県で作った空港道路もありますので、それとうまく連結していきながら、事実上の高規格化ができないのかということです。今、具体的な検討に入っております、手法がはっきりしますと、今度は予算取りという段階になるかと思っております。

県道の一部を使ったり、部分的には二ツ井から延伸しなければならないところもありますので、地元の市町村とも十分意思疎通を図っていかねばなりません。

ただ、地元としては、乗ったり降りたりすることなく、ワンウェイで行けるようになれば、スピードアップできるということで、具体論として去年あたりからこの話が出ていました。そういうことで、これを今、詰めている最中だということです。

---

(幹事社)

この件に関して、各社ご質問ありますでしょうか。

なければ、ほかの件についてご質問のある方、お願いいたします。

---

(記者)

今、大阪の橋下知事が中心となって、地方分権を推進するための首長連合の結成を目指す

しているというところだと思うんですけども、この一連の動きについて、知事はどのようなお考えをお持ちかということをお聞かせください。

---

(知 事)

橋下さんというのは、ややセンセーショナルな切り出し方をして注目を集めるという事が非常に上手な方ではありますが、地方分権への思いについては、私も同感であります。一つの橋下さん流のやり方かなと思っています。

ただ、それぞれ知事の立場がございますので、あの流れが知事会の中での大きな流れになるのかどうかは、また別の問題なのかなと思っています。来週、13、14日、全国知事会がありますので、その席上でどういってお話をなされるのか興味があるところです。

また、宮崎県の東国原さんもいろんな動きをしています。この地方分権の流れについては、市長会の時も大変関心を持っていましたけれども、知事会として、やはりきちっとした形で、政権がどうあろうが、国に対してさらに働きかけ、国民の理解も得きながら、動きを強めていくべきものと思っています。

---

(記 者)

そうしますと、まあ知事としては知事会の枠の中でそういったことを訴えていくと。

---

(知 事)

知事会としてもそうでしょうし、また、知事さんそれぞれのフィールドがありますから、単純に知事会は知事会としてやるでしょうし、それぞれのフィールドがある方はある方でやるでしょう。私も、市長会会長の時、いろんなところでお話をさせていただいたりしていました。

それぞれ大いに、知事会だけにかたまらずに、いろんな場面で知事さん方が自分の得意なフィールドで情報発信をすべきではないかと思います。

---

(記 者)

知事ご自身はですね、この首長連合に参加するというようなお考えはありますでしょうか。

---

(知 事)

まだ、直接働きかけがあった訳でもないですし、首長連合の基本的なそのスタンスというのは正式にまだ出ていませんので、今のところ、私はまだ何とも言いかねるということです。

---

(記 者)

ありがとうございます。

それともう一点なんですけれども、昨日、静岡県の知事選があったと思うんですけども、民主党が推薦した川勝平太さんが当選されました。これについて知事、何かご感想があればお願いいたします。

-----  
(知 事)

昨日の結果は、民主党が一部分裂のような形になってああいう僅差になったわけであり  
ますけれども、多分民主党が分裂しなければもっと大差がついていたと思います。個別の  
政策を理解してというよりは、今の国政の姿について、何と言ったらいかな・・・いさ  
さか心許ないというのが、国民の心理ではないかと思うんですね。そして、だらだらした  
状況がずーっと続いていますので、それに対する国民の反応としてああいう形になるとい  
うのは、十分あり得るのかなと思っております。

-----  
(記 者)

分かりました。ありがとうございます。

-----  
(記 者)

今のあのだらだらした状況というのはどういうことを差すんでしょうか。

-----  
(知 事)

結局、自民党政権がずっと解散を回避・・・したのかどうか分かりませんが、総  
理が非常に短期間で代わりつつ、何とか政策的なものでフォローしようという形で、今ま  
できた訳であります。いつかスパッと解散するという期待感が何となく国民の中にあっ  
たけれども、しかし、解散という手法をあまりにもこうだらだら延ばしてきたというこ  
とについて、理屈ではなくて、そろそろスパッと行こうと、そういう気持ちが国民の中  
にあるんじゃないのかなと思います。

首長の方たちも、もうちょっと早い時期に白黒決着してくれよという流れというのは結  
構あったんですよ。ここまできると、解散するかはもう時間の問題、あともう間もなく(衆  
議院の)任期ですのでね。景気が悪くて大変なときにメリハリがないという、そういう気  
持ちがあるんじゃないですか、国民の中に。

-----  
(記 者)

6月の県議会で、衆院選の対応について、その一党一派に偏らないというお話されてい  
ましたが、それはその、例えば候補者から、街頭などのゲスト出演を求められたときには、  
すべて断るという姿勢なんでしょうか。

-----  
(知 事)

直接的な選挙活動については、いつ選挙になるか分かりませんので、時間的なものもござ  
いますし、そういう形は今、想定をしておりません。ただ、当然、その近い人や支援をし  
た人に激励の電報だとか、為書きだとか、そういうことは当然あり得ることでありますけ  
れども、直接私が街頭に立ってというのは、想定していません。

-----  
(記 者)

あともう1点、次の衆院選で消費税の考え方が一つの争点になりそうなんですけども、

その消費税の引き上げについて知事のお考えを伺えますか。

-----  
(知 事)

これは全国市長会の時もそうですし、今の全国知事会でも、一応組織としての流れは消費税よりもむしろ地方消費税の充実といいますか、引き上げというか、そういう流れは一つはあります。ただ、これが時期的な問題、今の景気も含めて、そういうときにどうなのかなという意見も一方にあるわけです。いずれにしても、私はやはり国の行財政改革がメリハリのついたものでなければ、かなり抵抗感があるんじゃないかと思います。

ある意味では、地方分権とも関連するわけで、全国知事会だとか市長会、町村会、地方六団体の場合は、抜本的な税制改革というのが一方にはあります。だから、単に消費税だけを上げるというのではなくて、様々な形で、今の税制全体を見回して、いつか今の形では立ち行かなくなるだろうという考えはあると思います。昨日の国会議員への説明会でも言いましたけれども、例えば国の二重行政、三重行政のそういうところなど地方分権とも絡んでくるので、ある程度方向性をきっちりした上で、将来的な消費税の引き上げ導入というのは、私は必要だとは思いますが。ただ、今の状況でそれだけではなくて、全体の税バランスを改正しながら、国の行財政改革、地方分権をやって、それでなおかつ消費税の引き上げが必要だということで国民に示して理解を得るという方向が正しい道のりではなかろうかと思っています。

-----  
(記 者)

先程の首長連合の関連で1点だけ。

大阪の橋下知事は、次の来る衆議院選挙で政策を吟味した上で、どの政党を支持するかというのを表明したいというようなことをおっしゃっていましたが、そういった手法についてはどうお考えですか。

-----  
(知 事)

知事としての信念でお話になるのは、それはそれでよろしいのではないかと思います。言わなくても、例えば知事で特定の政党の候補を応援している方も何人もいます。たまたま橋下さんのようなアピール力のある方が言うことで全国的には知れ渡ることになりますが、都道府県の中で一方の候補を支持するという形の方は今までもいましたし、それは取りも直さず国政、特に衆議院になりますと、政党を支持することとある意味ではくつついた話にもなるのではと思います。

-----  
(記 者)

静岡県知事選の件なんですけれども、さっきですね、国政の姿について、いささか心許ないというのが国民の真意じゃないかと思うというお話でしたが、それは、つまり自民党に対する不満が国民の間で今募っているというふうに、知事はお考えなんですか。

-----  
(知 事)

政治全体に対する不満感というのはあろうかと思いますが、現実の政権党である

自民党に対する不満というものも、世論調査等を見ても明らかに出てきていますし、政権党はより厳しい評価を受けるということもありますが、やはり今の自民党が心許ないというのが国民の大方の一つの気持ちではないのかなと思います。

---

(記者)

ありがとうございます。

---

(幹事社)

ほかにご質問ある方いらっしゃいますか。

---

(記者)

1つだけ、次期の衆院選挙で、政権交代が実現すると思われませんか。

---

(知事)

微妙な問題ですね。客観的考察をすると、(政権交代の)可能性が極めて高いのではないかと思います。ところが、政治も、刻一刻と変わりますから、これは今の時点の話で、1カ月後になるとどうなるかはまた分かりません。自民党というのは意外と粘り強い策士がいて、いろんなシチュエーション、状況をつくるのも自民党はうまいわけですから、そこら辺が解散までの間のせめぎ合いじゃないでしょうか。ただ、先程言ったとおり、そればかりやっていると国民はますますスッキリしないということになってくるのかなと思います。

---

(記者)

現時点でその可能性が高いと思われる理由っていいですか、その数値的なものでも構わないんですけども、その根拠となっているのは。

---

(知事)

報道機関の皆さん方のところを出している世論調査は、そんなに違ってないと思います。今回の静岡県知事選の投票結果を見ても、民主系の候補を両方合わせますと100万以上になって、30万以上の差がついたことになりましたね。まあ、そう単純にはいかないんですけども・・・最近の流れを見ますと、なかなか難しいなと思います。

もう一つは、民主党は若い政党ですから、候補者選定に自由度があるんですよ。そうすると、その時代に合った雰囲気を持った候補者、あるいは単純かもしれませんが、テレビ時代ですので、顔の映りのいい候補者だとか、いろいろな選択ができます。自民党は、歴史ある党で、一つの大きな流れ、くくりの中でやっていますので、候補者選択の自由が極めて低く、選択の幅が狭いわけですから、そうすると選挙は窮屈にならざるを得ない。若い政党とそうでない政党の対決の場合は、そうやっていってるんじゃないですか。なんか評論家的な話になりますけど。

---

(幹事社)

ほかにご質問ある方いらっしゃいますか。

---

(記者)

今日、新たに副知事が就任されましたけど、新しい副知事にはどのような分野を担当してもらって、かつどのようなことを期待されているかをお願いします。

---

(知事)

今日、初めての朝の会でも中野新副知事さんにはお話を申し上げました。前の佐藤さんからは、ダイレクトにすぐ企業誘致という話だけではなく、それも含めて様々な県外企業のチャンネルを開いていただきました。また、県内企業に対しても、オールジャパン、あるいはインターナショナルの情報を入れ込んでいただいて、その中で県内企業も、苦しいけれどもいろいろ新しい方向に行こうというところも出てきています。そういう意味で佐藤前副知事さんからも十分引き継ぎを受けたようでありますので、そのチャンネルをさらに広げて欲しいと思います。

中野副知事は、ジェットロにもいらっしゃったことがありまして、貿易振興という面でも活躍していただけると、また、前のポストが地方の企業立地のみならず農商工連携の担当課長でもあり、さらにその前は中小企業庁の技術課長であったということですので、まさに今、例えば自動車産業だとか航空機だとか一定のジャンルを決めた形での様々な中小企業の技術支援、技術力向上政策もやっておりますので、丁度、中野さんが国にいたときのテリトリーのようなので、まずは産業・経済・雇用と、これについて一生懸命やっていただきたいと思います。あっちこっち走り回って、出張が多くなると思いますけれども、十分体に気を付けて、とにかくお願いしますということは朝にお話いたしました。

この後また、中野副知事の記者会見があるようでありますので、そこでまたお聞きください。

---

(幹事社)

これで終了させていただいてよろしいですか。  
どうもありがとうございました。

---

(知事)

ありがとうございました。